

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患政策研究事業  
分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 大島 寧 東京大学整形外科・脊椎外科 講師

研究要旨 1789人の健診データを用い、頸椎 OPLL の頻度、危険因子について考察した。頸椎 OPLL は 120 名(6.7%)に見られた。高齢、男性、BMI 高値、高血圧、糖尿病、高尿酸血症、高脂血症、頸動脈プラークの存在が有意に多い結果であった。多変量解析の結果、高齢、男性、頸動脈プラークの存在が OPLL の存在と関連していることが判明した。

A．研究目的

頸椎 OPLL における危険因子を健診データを用いて調べること

B．研究方法

当院人間ドックにおける健診データを用いて頸椎 OPLL の頻度を調べた。1789 名の全身 CT(がんスクリーニング用) 採血結果、骨密度、頸動脈エコーなどを検討した。

(倫理面での配慮)

当院研究室内でデータ解析を行った。

C．研究結果

頸椎 OPLL は 120 名(6.7%)に存在した。単変量解析の結果、高齢、男性、BMI 高値、高血圧、糖尿病、高尿酸血症、高脂血症、頸動脈プラークの存在が OPLL のリスク因子であった。多変量解析の結果、高齢(OR 1.03)、男性(OR 1.91)、頸動脈プラークの存在(OR 1.71)が OPLL の危険因子であった。

D．考察

OPLL の危険因子として男性、BMI 高値、糖

尿病の存在などが知られている。ほとんどが手術を行う集団を対象にした研究である。本研究では無症候性の OPLL を有する群における危険因子を同定した。特に、頸動脈プラークの存在は過去に報告がなく、OPLL 発症と動脈硬化の関連を示唆する初めての報告となった。

E．結論

高齢、男性、頸動脈プラークの存在が頸椎 OPLL の危険因子であった。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G．研究発表

1. 論文発表

Association between ossification of the longitudinal ligament of the cervical spine and arteriosclerosis in the carotid artery.

Oshima Y, Doi T, Kato S, Taniguchi Y, Matsubayashi Y, Nakajima K, Oguchi F, Oka H, Hayashi N, Tanaka S.

Sci Rep. 2020 Feb 25;10(1):3369

2.学会発表 なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

( 予定を含む )

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし